

今月号は景山裕紀先生から放射線科がご専門の南口貴世介先生にバトンが移りました。

## 第216回

## 放射線科の今日のごろ

医師 (MD Anderson Cancer Center)  
博士研究員 南口貴世介



はじめまして。2020年5月よりヒューストンにきました南口と申します。

私は日本では放射線科医として勤務しておりました。放射線科は、大きく分けて2つの分野があります。1つは様々な画像機器を用いて病気の診断に迫る画像診断部門、またもう1つは画像下でカテーテル(血管内を行き来する細いワイヤーや管)を用いることで体のいたるところの様々な病気を治療する画像下治療部門です。私は前者を専門としており、こちらに来るまでは日々画像と向き合いながら医療現場に携わってきました。

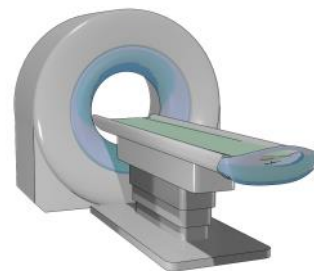
今日は、私の思う「放射線科の今日のごろ」についてお話しさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まずは放射線科のイメージを、皆様はどのようにお持ちでしょうか。我々放射線科、特に画像診断を専門とする医師は普段、診療の表現場に立つ機会が少ないので「放射線科の人って一体どこで何をどう働いているんだろう?」と思われる方も少なくないかもしれません。この放射線科という仕事は残念ながらドラマや漫画で取り上げられることも少なく、田舎の病院では「X線科」という謎の診療科名を付けられていることもときにあります。しかし最近、『ラジエーションハウス』といった放射線技師に焦点を当てた漫画・ドラマが始まり、非医療者の方からも放射線科の仕事が少しは認知されるようになってきたように感じています。ちなみに放射線技師は、放射線科医師にとって仕事の上で欠かすことのできないバディのような存在です。

画像診断を専門とする医師は、病院内の読影室という場所で主に仕事をしています。ここには院内で撮影された全ての画像が送られてきますので、我々はタイムリーにその画像を見て、画像情報を主治医に提供しています。画像の撮影は、すべて放射線技師の方が行ってくれます。この撮影された画像には、必ず主治医の先生からの依頼情報がセットとなり送られてきます。この依頼情報には患者様の訴え・症状が記載されてい

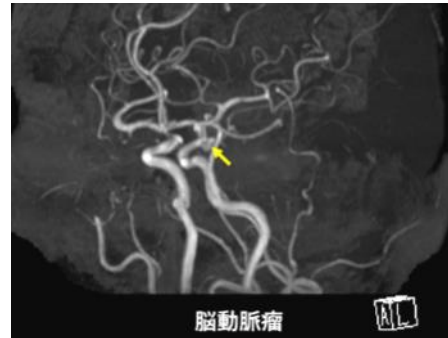
ますので、我々はそれを見ながら画像を見て、その原因となりえる情報があるかどうかを探します。また時には依頼内容とは関係のない画像所見をみつけることもありますので(例えば「転倒後に腰痛が生じたため脊椎骨折の有無の精査」という依頼内容ですが、大腸癌が見つかった場合など)、そのような場合は主治医の先生に緊急連絡を入れることで、患者様の予期せぬ事態を避けるようにしています。

画像検査と一言で言っても、その検査の中には様々な種類があります。CTやMRIはよく耳にする検査名かと思いますが、その中でも造影剤(血管内に造影剤という薬を注射することで、より体の状態を見やすくします)を使うかどうか、はたまた造影剤にしてもどのような種類の造影剤を使うのかということを検査前に決定しないとイケません。また造影剤にはアレルギー症状を示す方もおられ、そのような方には特別な対応が必要となります。



他にも超音波検査、PET、核医学検査などがあり、CTやMRIと同様にそれぞれさらに細分化されています。我々放射線科医は、主治医の求める病気に対して、その目的に応じた検査を推奨し、よりよい画像情報が得られるように協力しています。

例えば脳動脈瘤について考えてみましょう。残念ながら造影剤を使わないCTでは動脈瘤を見つけることはできません。一方、造影剤を使わないMRIであれば、脳動脈瘤をみることができます。造影剤を使うCTであれば、動脈瘤を発見することはできますが、アレルギーが生じる可能性や被曝を伴う点から、スクリーニング目的(いわゆる健康診断目的)の動脈瘤の検査であればMRIを使うことが一般的です。また近年の新型コロナ感染症ですが、この新型コロナ感染症によって生じる肺炎はCT画像で特徴的な所見を呈しますので、CT検査を通じてよりコロナ感染症に起因する肺炎であるのかどうかについて迫ることもできます。こうした肺炎にはMRI検査を行ってもメリットがありません。



近年では画像診断技術の進歩により、検査もあっという間に終わります。造影剤を使わないCTやMRIであれば、15分もあれば終わることが多いです。患者様にとっては検査を受ける負担が少なくなり良いニュースですが、ひとむかし前と比べると検査数が右肩上がりに増えており、なかなか放射線科医の数が増えない我々放射線科にとっては人材不足という課題にもなっています。これを読んでいる方の中で医療志望の方は、ぜひとも将来放射線科を候補の1つに考えていただければと思います。

今回は神経内科がご専門の安田怜先生です。安田先生とはマンションでの食事会で知り合いました。笑顔の素敵な先生です。